

希少金属新センター開始

メタルドゥ 太陽光発電を採用

レアメタルのリサイクル専門商社のメタルドゥ(大阪市、藤田國廣社長、☎06・6448・5151)は、神戸

市中央区で建設を進めてきたレアメタルの処理工場である「2nd物流センター」の業務を3月2日から開始した。

同センターは、業務の拡大に伴い約23億円かけて新設。敷地面積1万2700平方メートルにストックヤードやプラズマ切断機、分析室、放射線感知ゲート、50メートルトラックスケールなどを構える。ヤード内

に縦最大6段、390棚のコンピュータ制御する「自動倉庫」を導入。最大重量は585トナまで収容できる。

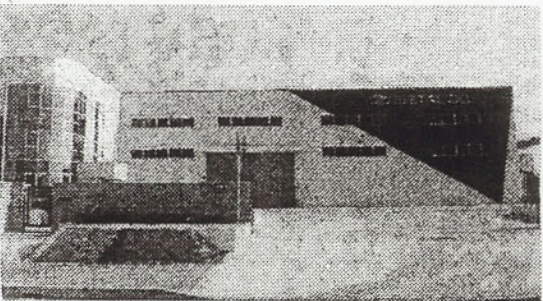
国内でも、大容量の自動倉庫を採用している金属リサイクル企業は少数だという。将来的には、ヤード内の対面スペースにも同等規模の設備を設置する。

ピッドヤードの屋上全面約140坪に太陽光発電パネルを設置し、1日最大30キロワットの発電で工場内や敷地内の街灯などに利用する。工場内は、オール電化を採用、CO₂削減にも対応している。敷地内に約420坪の緑化面積を確保し、3100本の植樹も行うなど地域環境へも配慮した。

現行の1st物流センター(大阪市)とともに、フル活用してゆける体制を構築する考え。同社の藤田社長は、

現在の経済不況について、「環境変化に適合し

と存在意義を考えるとやることはある。市場の景気回復には、時間も必要だが、それに備えた取引先の開発と関係強化が不可欠。持久戦も覚悟した地道な改善、改革を行いたい」と語った。



本日オープンした2nd物流センター